

平成 16 年度評議員会議事録

日 時：平成 16 年 11 月 19 日（金）17:00 ~ 19:00

場 所：山口大学学生会館 2 階セミナー室

出席者：高橋三保子、金田良雅、神原廣二、洲崎敏  
伸、月井雄二、長澤秀行、芳賀信幸、春本  
晃江、渡辺彊、今井壯一、遠藤浩、田辺和  
祐、沼田治、藤島政博

欠席者：彼谷邦光

議 題：総会提出議題の検討

平成 16 年度総会議事録

## 報告事項

## 1. 庶務関係

月井雄二庶務担当より、会員の異動（平成 16 年 11 月 17 日現在）について報告があった。

		(昨年報告数)
賛助会員	2 団体	(2 団体)
名誉会員	8 名	(8 名)
一般会員	154 名	(151 名)
学生通常会員	57 名	(62 名)
学生 1 年会員	11 名	(3 名)
合計	232 名	(226 名)

新入会 22 名

内訳 賛助 0 団体、一般 8 名、学生（通常）5 名、  
学生（1 年）9 名

退会 16 名

内訳 賛助 0 団体、一般 5 名、学生（通常）10  
名、学生（1 年）1 名

なお、平成 16 年度会費請求が遅れた経緯の説明があ  
り了承された。

## 2. 編集関係

洲崎編集委員長より、平成 16 年度原生動物学雑誌  
およびニュースレターの発行等について報告され  
た。

## 3. 学会賞等選考結果報告

高橋三保子会長から、本年度より新しくスタート  
した日本原生動物学会賞および日本原生動物学会奨  
励賞について報告があった。このうち、学会賞につ  
いては推薦がなかったため、奨励賞についてのみ選  
考を行なった。その結果、本年度奨励賞は杉浦真由  
美会員（奈良女子大学）に決定したことが報告され  
た。

## 4. その他

沼田治会員より、日本学術振興会生物系科学専門

調査班として、大会中に、原生動物の研究材料とし  
てのすばらしさ、発展性に関するアンケートへの協  
力要請があった。

## II 審議事項

1. 平成 15 年度会計決算報告および会計監査報告  
今井壯一会計担当より会計報告がなされた後、沼  
田治旧監事より監査報告があり、承認された。

## 2. 平成 16 年度中間報告

今井壯一会計担当より順調に執行されている旨の  
中間報告がなされ承認された。

## 3. 平成 17 年度活動計画

## イ. 事業計画

高橋三保子会長より次期事業の方針および計画に  
ついて以下のような説明があり、了承された。

昨年承認された日本における原生動物の分類に学  
会としてどう取り組むかを検討するグループからの  
要請に基づき、日本に生息する原生動物の種名リス  
ト作成を目指す「原生動物種一覧作成委員会（仮  
称）」を設置する。また、学会の活性化委員会（遠  
藤浩評議員）の活動として、原生動物の面白さを紹  
介する一般向けの本を学会として出版する予定であ  
る。

## ロ. 編集方針

洲崎敏伸編集長より、以下のような次年度の活動  
方針の説明があり了承された。

来年度は、第 1 号に絵葉書セットを付録として入  
れる。引き続き第 2 号の編集にも着手する。ホーム  
ページについては、本会記事や名簿などの整備、リ  
ンクが切れたものの削除などを行なう。

この他、次号のニュースレターに掲載予定の記事  
内容の紹介があった。また、原生動物学雑誌の投稿  
規程を現状に合わせるための一部改訂案が提示さ  
れ、了承された。

## ハ. 平成 17 年度予算案について

今井壯一会計担当より次年度の予算案について説  
明があり、承認された。

## 4. 学会賞等に関する内規の一部修正について

高橋三保子会長より「学会賞等に関する内規」に  
ついて以下のような一部修正案が提示され了承され  
た。

修正前：7. 推薦者は毎年 8 月末日までに申請書類  
（推薦理由書および候補者からの必要書類 3 部）を会  
長あてに送付する。

修正後：7. 推薦の締切りは毎年 8 月末日とし、申  
請書類（推薦理由書および候補者からの必要書類 3  
部）を会長あてに送付する。

## 5. 第12回国際原生動物学会議派遣助成について

高橋三保子会長より、2005年7月10日～15日に中華人民共和国広東省広州市で開催予定の第12回国際原生動物学会議(ICOP XII)に参加する会員に対して、国際交流基金から派遣費を助成する計画が示され、総額をおおよそ100万円とすることが了承された。助成額、および人数については、渡航経費等を調べた上で、後日、電子メール評議員会で決めることとなった。

追記：総会後の電子メール評議員会で、一人8万円、15人に援助することが決まった(2004.12.01)。

## 6. 次期大会について

次期大会(第38回、平成17年度、開催地帯広畜産大学)大会長の長澤秀行氏から、準備状況について報告があった。会期については、決まり次第ニューズレター等でお知らせする。

## 7. 次々期(第39回、平成18年度)大会長と開催地

総会では、次々期(第39回、平成18年度)大会長と開催地の候補が決まらなかった。このため、これも総会後の電子メール評議員会で決めることが了承された。

追記：その後、高橋三保子会長より、西九州大学の高橋忠夫氏にお願いすることが提案され、電子メール評議員会で了承された(2004.12.01)。

## 8. その他

日本学術会議会員候補者に関する情報提供について

高橋三保子会長より、日本分類学会連合から各加盟学会に対して、日本学術会議会員候補者として本学会会員1名、連合に所属する他学会会員1名を推薦して欲しい旨の要請があったこと、これに対し、本学会としては、高橋三保子会長と現連合副会長である原慶明氏(藻類学会)を推薦したいとの提案がなされた。

追記：後日、高橋・原の両氏は、日本分類学会連合が日本学術会議に推薦する学術会議会員候補者(2名)に決まった(第12回日本分類学会連合役員会、2004.12.08)。

## 平成15年度 日本原生動物学会会計決算報告

## 1. 収入の部

科目	予算額	決算額
前年度繰越金	1,100,000	1,156,916
学会費	1,092,000	930,500
賛助会費	30,000	0
寄付	0	106,500
学会誌別刷代	0	41,500
広告代金	0	20,000

利子	500	49
計	2,225,500	2,255,465

## 2. 支出の部

科目	予算額	決算額
学会誌印刷代(第36巻)	500,000	598,550
学会誌郵送代	60,000	80,030
編集諸経費・謝金	60,000	48,495
ニューズレター印刷代	50,000	23,000
ニューズレター編集諸経費	20,000	29,584
会計諸経費・謝金	40,000	40,000
庶務諸経費・謝金	30,000	30,000
大会補助費	200,000	200,000
奨励賞副賞費	100,000	100,000
若手の会助成金	20,000	20,000
評議員会費	40,000	40,000
通信費	20,000	2,660
振替手数料	7,000	5,410
その他	0	600
次年度繰越金	1,075,500	1,037,136
計	2,222,500	2,255,465

## 平成15年度 日本原生動物学会国際交流基金決算報告

## 1. 収入の部

科目	決算額
前年度繰越金	1,454,689
寄付(樋渡宏一ほか)	360,000
利子	22
計	1,814,711

## 2. 支出の部

科目	決算額
外国人招待者謝金	50,000
次年度繰越金	1,764,711
計	1,814,711

## 平成15年度 日本原生動物学会基金決算報告

## 1. 収入の部

科目	決算額
前年度繰越金(定額預金)	1,300,000
前年度繰越金(普通預金)	8,947
計	1,308,947

## 2. 支出の部

科目	決算額
次年度繰越金	1,308,947
計	1,308,947

## 平成17年度 日本原生動物学会会計予算案

## 1. 収入の部

科目	予算額
前年度繰越金	1,100,000
学会費(6500×151+2500×69)	1,154,000

賛助会費	20,000
利子	100
計	2,274,100

学会賞等に関する内規

平成 15 年 11 月制定  
平成 16 年 11 月改訂

2. 支出の部	
科目	予算額
学会誌印刷代 (第38巻)	500,000
学会誌郵送代	60,000
編集諸経費・謝金	60,000
ニュースレター印刷代	50,000
ニュースレター編集諸経費	20,000
会計諸経費・謝金	40,000
庶務諸経費・謝金	30,000
大会補助費	200,000
奨励賞副賞費	100,000
若手の会助成金	20,000
評議員会費	20,000
日本分類学会連合分担金	10,000
通信費	5,000
振替手数料	7,000
次年度繰越金	1,152,100
計	2,274,100

学会員の研究活性化のため、日本原生動物学会賞および日本原生動物学会奨励賞制度をおく。

1. 学会賞 (The Award of the Japan Society of Protozoology) は、中堅の研究者のこれまでの業績を評価し、更なる発展を期待するものである。
2. 奨励賞 (The Encouragement Award for Young Protozoologists) は、若手の会員 (8 月末日で満 35 歳以下) の今後の飛躍を奨励するものである。
3. 学会賞候補者は自薦でなく会員からの推薦とする。推薦者には当該研究の現・元指導者でないことが望ましい。
4. 奨励賞候補者は会員からの推薦の他、自薦も可とする。
5. 学会賞候補者として推薦されたものは、必要書類 (履歴書・研究業績リスト・会員歴・主要論文別刷 5 編) 各 3 部を推薦者に提出する。
6. 奨励賞候補者として推薦されたものは、必要書類 (履歴書・本学会での発表リスト・会員歴・論文別刷等参考となるもの) 各 3 部を推薦者に提出する。
7. 推薦の締切りは毎年 8 月末日とし、申請書類 (推薦理由書および候補者からの必要書類 3 部) を会長あてに送付する。
8. 評議員会において互選により学会賞等審査委員 3 名および選考委員長 1 名 (いずれも任期 3 年) を選び、審査を行い、結果を評議員会に諮って受賞者を決定する。

付則：従来の「日本原生動物学会奨励賞」については、英文「The Award of the Japan Society of Protozoology」をそのまま同じとして、和文の名称を「日本原生動物学会賞」に代えて使用することとする。

平成17年度 日本原生動物学会国際交流基金予算案

1. 収入の部	
科目	予算額
前年度繰越金	2,170,047
寄付	250,000
計	2,420,047

2. 支出の部	
科目	予算額
外国人招待者謝金	250,000
国際原生動物学会補助金	1,000,000
次年度繰越金	1,170,047
計	2,420,047

平成17年度 日本原生動物学会基金予算案

1. 収入の部	
科目	予算額
前年度繰越金	1,309,798
利子	60
計	1,309,858

2. 支出の部	
科目	予算額
次年度繰越金	1,309,858
計	1,309,858

名誉会員推薦の内規

平成 5 年 8 月制定  
平成 15 年 11 月改訂

日本原生動物学会会則第四条の規定に従い、下記のとおり評議員会における名誉会員選考内規を定める。

1. 名誉会員は本学会の発展 (＊) と原生動物学の進歩に著しい功績のあった正会員で会員歴 20 年以上、年齢 70 歳以上であることを原則とする。但し、特に顕著な功績者は会員歴、年齢を問わない。
2. 外国国籍を有し、学術上の功績顕著で本会に特に功績のあったもの。
3. 名誉会員は年会費および大会費を免除され、会誌

の無料配布を受ける。

4. 名誉会員候補者は評議員によって推薦され、推薦状、候補者の略歴および業績目録を会長に提出し、評議員会で決定する。

\* 申し合わせ事項

- ・ 3期(9年間)以上評議員を務めた者
- ・ 会長経験者

#### 日本原生動物学会賞受賞者名

- 1991年 沼田 治(筑波大学)  
テトラヒメナの多機能タンパク質の研究
- 1992年 田辺和祐(大阪工業大学)  
マラリア原虫の寄生に関する分子生物学的研究
- 1993年 彼谷邦光(国立環境研究所)  
環境適応における脂質分子の役割
- 1994年 今井壮一(日本獣医畜産大学)  
ルーメン内繊毛虫の分類学的研究
- 1995年 見上一幸(宮城教育大学)  
ゾウリムシの二核性と核分化の研究
- 1996年 藤島政博(山口大学)  
ゾウリムシとホロスボラの共生における宿主-共生生物間相互作用  
(受賞者なし)
- 1997年 芳賀信幸(石巻専修大学)  
イマチユリン:未熟期の分子機構
- 1999年 広野雅文(東京大学)  
クラミドモナスの非保存的アクチン
- 2000年 松岡達臣(高知大学)  
繊毛虫プレファリスマのキノン光センサーと光シグナリング
- 2001年 長澤秀行(帯広畜産大学)  
トキシプラズマ感染に対する宿主免疫システム
- 2002年 春本晃江(奈良女子大学)  
繊毛虫における細胞間相互作用
- 2003年 洲崎敏伸(神戸大学)  
ユージェナの細胞体変形運動
- 2004年 (受賞者なし)

#### 日本原生動物学会奨励賞受賞者名

- 2004年 杉浦真由美(奈良女子大学)  
繊毛虫プレファリスマにおける接合誘導物質の分子生物学的研究

#### 第1回大会以来の開催地及び大会長

	開催地	開催年度	大会長
第1回	小平市	昭和42年	藤田 溥吉
第2回	吹田市	昭和43年	猪木 正三
第3回	広島市	昭和44年	尾崎 佳正
第4回	東京都	昭和45年	松林 久吉
第5回	徳島市	昭和46年	尾崎 文雄
第6回	仙台市	昭和47年	樋渡 宏一
第7回	奈良市	昭和48年	稲葉 文枝
第8回	東京都	昭和49年	石井 圭一
第9回	大阪市	昭和50年	高田 季久
第10回	東京都	昭和51年	盛下 勇
第11回	岐阜市	昭和52年	野澤 義則
第12回	横浜市	昭和53年	斎藤 実
第13回	吹田市	昭和54年	中林 敏夫
第14回	つくば市	昭和55年	渡辺 良雄
第15回	広島市	昭和56年	重中 義信
第16回	東京都	昭和57年	石井 俊雄
第17回	津市	昭和58年	安達 六郎
第18回	東京都	昭和59年	浅見 敬三
第19回	大分県	昭和60年	山高 里盛
第20回	東京都	昭和61年	小山 力
第21回	山口市	昭和62年	星出 一巳
第22回	つくば市	昭和63年	渡辺 良雄
第8回国際原生動物学会			
	つくば市	平成元年	樋渡 宏一
第23回	長崎市	平成2年	神原 廣二
第24回	伊勢原市	平成3年	金田 良雅
第25回	奈良市	平成4年	菅沼 美子
第26回	石巻市	平成5年	樋渡 宏一
第27回	帯広市	平成6年	鈴木 直義
第28回	小金井市	平成7年	鶴原 喬
第29回	東広島市	平成8年	細谷 浩史
第30回	水戸市	平成9年	三輪 五十二
第31回	岐阜市	平成10年	野澤 義則
第32回	仙台市	平成11年	渡辺 彊
第33回	金沢市	平成12年	遠藤 浩
第34回	神戸市	平成13年	洲崎 敏伸
第35回	高知市	平成14年	松岡 達臣
第36回	東京都	平成15年	今井 壮一
第37回	山口市	平成16年	藤島 政博